



2023年3月30日

各 位



会社名 JCRファーマ株式会社  
代表者名 代表取締役会長兼社長 芦田 信  
(コード番号 4552 東証プライム市場)  
問合せ先 上席執行役員管理本部長 本多 裕  
(TEL 0797-32-1995)

### 通期業績予想の下方修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年5月12日に開示した通期連結業績予想を以下の通り修正しますのでお知らせいたします。

#### 1. 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	45,000	14,500	14,500	10,300	83.25
今回修正予想 (B)	34,200	5,000	5,200	3,800	30.59
増減額 (B-A)	△10,800	△9,500	△9,300	△6,500	—
増減率 (%)	△24.0%	△65.5%	△64.1%	△63.1%	—
前期実績 (2022年3月期)	51,082	19,933	20,512	14,507	117.26

#### 2. 修正の理由

2023年3月期の通期予想の見通しを下方修正する主な要因は、契約金収入および製品売上の計画未達によるものです。

契約金収入については、ライソゾーム病開発品目である JR-171、JR-441、JR-446 のライセンス契約が引き続き交渉中であり、今期中の契約締結には至らなかったこと、またライソゾーム病治療薬以外の分野で想定していた契約が締結に至らなかったことなどにより、修正後予想は 6,500 百万円（期初予想 15,400 百万円）と計画未達となる見込みです。

製品売上については一部の製品で前期を上回る実績となるものの、医薬品合計の期初予想に対しては未達となる見込みです。内訳は<別表1>をご参照ください。

費用面では、グローバル開発を目指すライソゾーム病領域の開発品を中心に予定通り研究開発が進捗しており、研究開発費は修正後予想 8,900 百万円（期初予想 9,000 百万円）となります。販売・一般管理費は経費削減等に取り組んだ結果、修正後予想 11,500 百万円（期初予想 12,500 百万円）となる見込みです。

これらの結果、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は2022年5月12日に発表した通期予想から上記の通り下方修正することといたしました。

なお、期末配当予想につきましては、現時点で2022年5月12日に発表しました1株当たり10円から変更の予定はありません。

<別表1：2023年3月期業績予想数値修正後の売上高内訳予想>

(単位:百万円)

	前回発表予想 (A)	今回修正予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	参考：前期実績 (2022年3月)
グロウジェクト®	13,100	12,000	△1,100	△8.4%	12,945
イズカーゴ®	5,210	4,500	△710	△13.6%	3,003
テムセル®HS注	3,530	3,400	△130	△3.7%	3,497
腎性貧血治療薬	4,930	4,750	△180	△3.7%	5,875
エポエチンアルファBS注「JCR」	2,630	2,650	20	0.8%	2,876
ダルベポエチンアルファBS注「JCR」	2,300	2,100	△200	△8.7%	2,998
アガルシダーゼベータ BS点滴静注「JCR」	760	1,000	240	31.6%	711
医薬品合計	27,530	25,650	△1,880	△6.8%	26,032
契約金収入	15,400	6,500	△8,900	△57.8%	10,571
その他	140	120	△20	△14.3%	102
AZD1222原液	1,930	1,930	—	—	14,375
売上高合計	45,000	34,200	△10,800	△24.0%	51,082

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。

### 3. 研究開発の進捗

当社が取り組むライソゾーム病領域、成長ホルモン領域、細胞治療・再生医療領域における新薬の研究開発に関し、社内想定通りに進捗しております。特にグローバル開発を目指すライソゾーム病領域の開発品は、提携交渉を進める一方で、製造プロセス開発や非臨床試験、臨床試験の準備を順次進めております。当社の開発パイプラインは<別表2>をご参照ください。

また本日、アレクシオン・アストラゼネカ・レアディジェーズとのJ-Brain Cargo®技術を用いた神経変性疾患治療薬に関する共同研究開発、選択権およびライセンス契約を締結しました。本契約は神経変性疾患の治療にJ-Brain Cargo®技術を適用する初めてのグローバルパートナーシップです。当社は引き続き、幅広い中枢神経疾患への応用が期待できるJ-Brain Cargo®技術を当社の注力領域であるライソゾーム病領域以外にも応用するため、パートナーとの提携にも注力してまいります。

<別表 2 : JCR の開発パイプライン>

開発番号 (国際一般名)	開発段階	適応症	備考
JR-141 (pabinafusp alfa)	グローバル : 臨床第 III 相試験	ムコ多糖症 II 型 (ハンター症候群)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> <li>• 2025 年度-2027 年度、 米国・欧州・ブラジルでの 承認予定</li> </ul>
JR-171 (lepunafusp alfa)	グローバル : 臨床第 I/II 相試験	ムコ多糖症 I 型 (ハーラー症候群等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> <li>• 2023 年度 PhIII 試験</li> </ul>
JR-162	前臨床	ポンペ病	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> </ul>
JR-441	前臨床	ムコ多糖症 IIIA 型 (サンフィリップ症候群 A 型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> <li>• 2023 年度 PhI/II 試験</li> </ul>
JR-443	前臨床	ムコ多糖症 VII 型 (スライ症候群)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> </ul>
JR-446	前臨床	ムコ多糖症 IIIB 型 (サンフィリップ症候群 B 型)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> <li>• 2023 年度 PhI/II 試験</li> </ul>
JR-479	前臨床	GM2 ガングリオシドーシス (サンドホフ病、テイ・サックス病)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> <li>• ~2025 年度 PhI 試験</li> </ul>
JR-471	製法検討	フコシドーシス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• J-Brain Cargo<sup>®</sup>適用</li> </ul>
JR-401X	承認申請	SHOX 異常症における低身長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グロウジェクト<sup>®</sup>適応拡大</li> </ul>
JR-142	国内 : 臨床第 II 相試験 (症例登録完了)	小児成長ホルモン分泌不全性低 身長症	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 持続型成長ホルモン製剤</li> <li>• 2023 年度 PhIII 試験</li> </ul>
JR-031HIE	国内 : 臨床第 I/II 相試験	新生児低酸素性虚血性脳症	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テムセル<sup>®</sup>HS 注適応拡大</li> </ul>

以 上